

# 原発対策委員会新聞

社 党 福 島 県 連 合 原 発 対 策 委 員 会

発 行 責 任 者 小 川 右 善

## 吉田忠智国会議員来福

### 子ども被災者支援法撤回・再策定要請

#### 原発対策委員会開き情勢認識・活動報告

九月七日、福島「杉妻会館」において、党県連合原発対策委員会を開いた。委員会は吉田忠智国会議員を迎え、参議院選挙後の国会及び政府動向などの報告や県内情勢を受けて討論した。

委員それぞれからは、この間の各地区の報告、東白からは「埴町木質バイオマス発電反対」いわきでの「損害賠償の増

額申し立て準備」福島島の「震災・原発事故以降の取り組み」郡山の「放射能計測運動」喜多方の「議会活動」など、貴重な報告がされた。

なお、当面は、子

#### 撤回前提・県政府要請行動

日、復興庁から発表された「子ども被災者支援法」基本法（案）の撤回、再策定を求めて、以下の取り組みを強化することとした。

基本法（案）は、

ども被災者支援法撤回及び再策定のとりくみに集中することにした。

併せて、損害賠償の全体的取り組みや健康手帳など、被災者援護法に準じた法整備全国署名に向けた党内論議を準備することとした。

また、仮称「原発事故調査及び研究交流会」現地開催を全国連合に要請した。

県連は、八月三〇

反映することとした。また、県及び国に対して早期の撤回・再策定を要請することとした。県要請の骨子は、子ども被災者支援基本法に対する県の態度を明確にさ

#### 急遽 女性部で学習会開催

基本法（案）を巡る緊迫した諸情勢を受けて、急遽一日、女性部で学習会を開き、基本法の問題点

を意思統一した。一被災者の意見反映過程に問題有り、二、対象地域の基準三、選択肢への支

子ども被災者支援

国・東京電力に不信感

月、復興どころか事態はいつこうに進まない。いまだに一五万人が避難している状態は異常な事態である。

収束・廃炉作業における汚染水問題は、事故収束の困難さと廃炉過程の危うさをさらけだしては。事故を小さく見せようとす東京電力の姿勢は少しも変わる

福島県民は静かでおとなしいとの声も聞くが、確かに愚直なまでに寡黙、耐えることに慣れている。しかし、やがて怒りがマグマのように潜んでいることを思い知るときがくる。テキストテキストテ

### オリピック東協教 安総理誓

二〇二〇年オリピック東京開催が決定した。汚染水問題で危ぶまれただけに決定した瞬間のテレビ放映は、喜びの喚起で沸く画面を一樣

に映し出した。県民の思いは複雑である。「フクシマが忘れられる」の声や諦めが交錯する。それにしても、安倍総理のプレゼンテーション。汚染水は「状況はコントロール

ルされている」「港湾内に完全にブロックされている」「健康についても現在も将来も問題ないと約束」「国が全面に立つ」と安全と未来に責任を持つと言いつつ、何を根拠に。フクシマに来て同じ発言を乞い願う。キ

#### 寡黙の中に潜むマグマ

国も全面に立つてと責任を強調するが、多額の税金投入するだけで抜本的な対策を講じているわけではない。

県民の国や東電に対する不信感は、被災の現実を通して感じているものだ。

福島県民は静かでおとなしいとの声も聞くが、確かに愚直なまでに寡黙、耐えることに慣れている。しかし、やがて怒りがマグマのように潜んでいることを思い知るときがくる。テキストテキストテ

損害賠償申し立てを行うとして、精神的損害大人四万円、一八歳以下八万円一人・毎月を求め、いわき総支部を中心に福島、郡山総支部で準備を始めた。

県連は、全県的に取り組むべきだと、は、狩野光昭氏（いわき総支部）まで

に要請することにした。事故収束に至っていないこと。県民すべてが被災したことが、事前の暮らしたことを根拠として、いる。なお、相談、問い合わせ

日、復興庁から発表された「子ども被災者支援法」基本法（案）の撤回、再策定を求めて、以下の取り組みを強化することとした。

基本法（案）は、

を意思統一した。一被災者の意見反映過程に問題有り、二、対象地域の基準三、選択肢への支

国・東京電力に不信感

月、復興どころか事態はいつこうに進まない。いまだに一五万人が避難している状態は異常な事態である。

収束・廃炉作業における汚染水問題は、事故収束の困難さと廃炉過程の危うさをさらけだしては。事故を小さく見せようとす東京電力の姿勢は少しも変わる

福島県民は静かでおとなしいとの声も聞くが、確かに愚直なまでに寡黙、耐えることに慣れている。しかし、やがて怒りがマグマのように潜んでいることを思い知るときがくる。テキストテキストテ

# 原発対策委員会新聞

民主党福島県  
連合原発対策  
委員会

発行責任者  
小川右善

## 埴町・バイオマス発電白紙撤回



### 町長リコールも辞さず！

埴町における木質バイオマス発電問題は、放射能廃棄物の減量化に不安を持つ町民の反対・白紙撤回の声に反して、町当局は強引にすすめている。

県連合は、大きな住民運動となつていゝる事態を受けて一七日、木質バイオマス発電施設の白紙撤回を求めている「埴町木質バイオマス問題連絡会」（吉田広明会長）の現地取材に

訪れた。以下その現状及びこの間の経過について報告をする。現状は、鮫川村の消却施設事故を受けて「凍結」している

### 二転三転する町当局

「町当局説明が二転三転し、信用ができません。」と淡々と話す吉田広明会長、一、住民説明会では、山林・間伐材・伐材・端材などとしているが、県資料では放射能物質の付着した木質燃料を利用する計画と食い違い、バイオマス発電所と言いつつながら、震災廃棄物焼却発電である。二、最初の説明では、郡内の燃料との説明であったが、将来的

が、撤回は表明してない。町長のむしる意欲的にすすめる姿勢は変わっていないとのこと。

経過は、二転三点する町当局の姿勢と、町民の不安に応えず町民と対決する町長の対応に終始し、今日に至っている。連絡会では近く町長の解職・リコール運動も視野に入れ検討するようである。

### 深刻な汚染水

汚染水問題は、安倍総理の嘯き国際公約の下、次から次と深刻な事態が生じ、今や緊急事態である。非常事態、事故まっただ中と言っても言

い足りない。被害は甚大である。海洋放出による環境汚染、魚介類の出荷停止、労働者の被ばくと労働力の枯渇・帰町の妨げ・税金の投入など、電力、国の対策の犠牲になるのは、決まっ

と反目し、「徐染目的のバイオマス発電」新聞の掲載は誤解にはじまり、署名精査による反対者の恫喝、なおかつ「福島復興を妨げているのは県民自体ではないか」放射能による影響を「出ないお化けを出るぞ出るぞ」と言うのはどうかと、まったく原発事故を忘れた様子。

捨てならない。今必要なのは、被害の現実を重視することにある。町の財政や企業の誘致による経済効果以前の問題として、住民の安全やいのちの問題を優先するべきではないだろうか。

### 出ないお化けと揶揄

まない県民、ふるさとを奪われ生活拠点のない避難生活・高線量の下で危険にさらされながら働く原

発労働者の現状を考えると、放射能を出さないお化けと片付け、県民が復興の妨げと決めつけるのは聞き

放射能廃棄物処理は、そもそもモニタリングにはじまり、徐染―仮置き場―中間貯蔵施設―最終処分場の流れであり、中間貯蔵施設までは県内廃棄物処理が原則であったはずだ。ところが、いつの



### 責任は国

まにか焼却炉とか、バイオ発電など、減量化施設が浮上し、自治体の受け入れを促してきた。

徐染廃棄物に処理に難航している国・環境省の対応に、被災者が分断・対立させられることはない。改めて事故の加害者は、東京電力と国であることを自覚するべきである。

